自分の家族をみつめて

天王小・６　森下　侑美

私は、自分が家族の中で一番いそがしいと思っています。なぜなら毎日の学校の宿題の他にも、じゅくの宿題をやり、じゅく以外にも習字とけん道の二つの習い事をしているからです。だから、家でゆっくり休けいをする時間が少ないので、

「私もたまには休けいしたい！」

と、いつも口ぐせのように言っています。母は毎回笑うだけで、私は本気で言っているのに真けんに受け取ってくれません。私以外の家族は、仕事や学校から帰れば、ずっと家にいることができるのに不公平です。

私の家族は、父、母、兄、私の四人家族です。

両親共に働いていて、兄は高校に通っています。父は仕事から帰ってくると、おふろの準備をして、ご飯を食べたあとは、パソコンの前にいることが多いです。母は仕事から帰ってくると洗たく物を取りこんでご飯を作り、明日の弁当の準備をします。兄は学校から帰ってくると、すぐに自分の部屋に行って、ご飯以外は部屋にこもっています。部活もしていて、じゅくにも行っています。私は学校から帰ってくるとまず、おやつを食べながら宿題をします。それから習い事がある日は、親に送りむかえをしてもらいます。そして、帰って晩ご飯を食べるとやっと自由時間で、おふろに入ってねるまで動画を見たり、絵をかいたりゲームをします。

動画を見ていると、インターネットの調子が悪いときがあり、直してもらおうと父のところへ行きました。いつも通り父の興味があることを、パソコンでいろいろ検さくして遊んでいるんだろうなと思っていたら、仕事の書類みたいなものを作っていました。

「何これ、仕事？」

「そうだよ、明後日までにやらないといけなくてね。」

私の宿題と同じように、働くようになっても、やらないといけないものがあるのだと知りました。父は他にもごみ出しや、休みの日は洗たくを母の代わりにしたり、そうじ機をかけたりして母の家事を手伝っていました。

絵をかいているときに私は、晩ご飯の片付けをしないでソファで休けいしている母に言いました。

「早く片付けないとねる時間がおそくなるよ。」

「わかってるけど、ちょっと休けいさせて！帰ってからずっと動いてるんだから。」

私は、そう言われて思い返してみると、洗たく物の取りこみ、ご飯のしたく、習い事の送りむかえと、ずっと動いているなと思いました。私は、それを母がするのは当たり前だと思っていたので、何とも思いませんでした。だけど、よく考えてみると、母はこのあと洗い物が終われば明日の弁当を作って、全員がおふろに入ったらよくそうを洗って、洗たくをして、それを干していました。家のことを全部して、母の自由時間は、ご飯のあとの休けいと、ねる前だけだと気づきました。私より自由時間が全然少ないのに、それを毎日やらないといけなかったのです。ものすごく大変なことをしてくれているのだと思いました。

ゲームで進められないところがあったとき、兄の部屋に聞きに行きました。ね転がってゲームをしていると思ったら、机に向かって勉強をしていました。

「あれ？勉強してる。」

「言っとくけど、やることはちゃんとやってるからな。この大変さが、そのうちお前にもわかる。」

と、笑いながら強い口調で言われました。確かに教科書は厚く、調べることも多そうで、時間がかかりそうでした。私の宿題は長くても一時間くらいなので、中学校、高校へと進んでいくと、これ以上勉強しないといけないのかと、いやな気持ちになりました。兄は、部活も運動部でがんばっていて、じゅくにも通っているので、すごいと思いました。

仕事と学校に行く以外、何もしていないと思っていた家族は、私が動画を見たり、絵をかいたり、ゲームをしている自由時間に、私以上にいそがしそうにしているのがわかりました。さらに父母は、兄と私が自分のことに集中できるように、家事や送りむかえをしてくれていました。親がやるのが当たり前と思っていたことが、実はすごく大変で、ありがたいことなんだなとわかりました。

私は、自分が家族の中で一番いそがしいと思っていたけれど、よく観察すれば、みんな同じようにいそがしいと思いました。家族は習い事もなく、家にいて休けいしているのがうらやましいと思っていたけれど、実際は、家でやる仕事はたくさんあるんだなと思いました。特に、父母がやっている家事は、毎日だれかがやらないといけないし、時間がかかるので大変です。これからは、お皿を運んだり、お弁当をつめるお手伝いをしたりして、自分ができることを探して、少しでも家族の助けになれるように、私がお手伝いをすることで協力していこうと思いました。